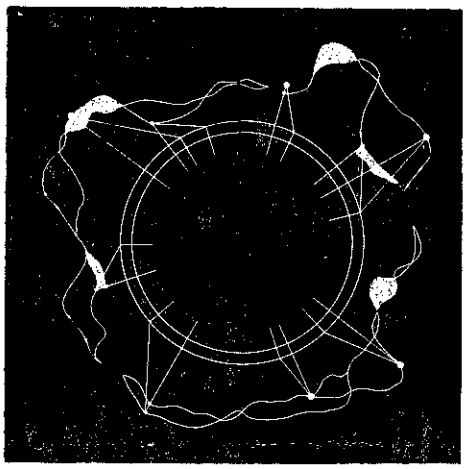

インタビュー　高橋アキ先生

現代曲奏者への道

現代曲奏者としてわが国を代表するピアニストといえば，兄君の高橋悠治氏と共に高橋アキ先生が挙げられる。あの難解？　な譜面から，躍動する音楽を生みだす方々は，特殊な才能を持ち合わせていて，私たちとはかけ離れた存在に感じられていた。が，横浜のフェリス女学院近くの山手にある閑静なお宅に，高橋アキ先生をお訪ねし，お話を伺っていくうちに，平凡な人間の温かさ，とでもいおうか，心あたたまる一時で，時間のたつのも忘れるほどであった。

勿論，アキ先生の非凡な才能は，隠すべきもないが。

―― 先生，くだらないことでも何でもお尋ねしますが，どうぞよろしくお願い致します。まず先生がお育ちなった御家庭のことから。

高橋アキ　父は，今の芸大を中退しましてね，昭和10年代に，共益商社からでていた「音楽研究」という雑誌の編集長をしていたんです。

―― あゝ，昔バイエルなんか出していた会社ですね。あの頃は，音楽の出版といえば，共益商社ぐらいしかありませんでした。お父さまは，音楽ジャーナリストの草分け，というところですね。ところでお母さまは？

高橋アキ　母は，昭和９年に今の芸大をでています。卒業してすぐ結婚し，子供が生れたものですから，自分が何しろピアノをやりたかったんですね。私は３人兄妹の末っ子なんですけれど，私の記憶では，自分が，井口秋子先生の所に通っていて，私たち子供に無理にピアノをさせるなんていうことはありませんでした。

両親共に健在で，母は今も鎌倉でピアノを教えています。

こどもの頃のレッスン

―― じゃ，ピアノを仕込まれたという感じはなく，御家庭の環境から自然に音楽に親しんでいらしたのですね。

私たちピアノ教師の立場からいうと，すぐにバイエルはいつ頃おえて，バッハのインベンションはいつ頃学ばれたのかしら，などということが気になるのですが。

高橋アキ　そんなわけで，いつ頃バイエルをおえたか記憶ないのです。確にバイエルをやったにはやったのですけれど。小学校３・４年の頃，ショパンのノクターンや小品を弾いていたのを覚えています。

小学校６年になった時，じゃあ本格的にやろうか，ということになって，伊藤裕先生のところに伺うようになったのです。その時，バッハのインベンションも最初からやり直し，ツェルニーも40番から，モーツァルトのソナタからと，きちっとやり直したのです。

―― どういう御関係から？

高橋アキ　母が井口秋子先生に師事していましたでしょ。井口先生の御紹介で兄が，中学一年の時から伊藤裕先生のところに通っていたのです。成城学園の井口先生のお宅より近いということもあって。

兄も，ピアノはいゝかげんにやっていましてね。作曲やりたいといって作曲の先生にはついていたのですけれど。

その頃，伊藤裕先生は，今の芸大を卒業されたてで，お若くはりきっていらっしゃいました。

―― 伊藤裕先生のお宅は，確か田園調布でしたね。鎌倉からお通いになるには，井口先生の所より近いといっても子供には大変でしたでしょ。

高橋アキ　それが，二週間一回のレッスンでも，なまけてばかりいたんですよ。ピアノより学校の方が面白くって，遊んでばかり。レッスン日の朝になると，わあわあ泣いてレッスンを休むといったものです。その頃，伊藤先生のお宅にも私の家にも電話がなかったので，わざわざ電報を打ちに母に行ってもらったりしたものです。

―― 一般の御子さんと変らない生活をしていたわけですね。ちょっと安心しました。ところで，芸高に行らしたのでしょ。

高橋アキ　えゝ，そうやってなまけてばかりいたのですけれど，中学2年生になってどの高校へ行くかという段になって，やっぱり音楽の道へ進もうかということになって，なんとなくいやいや芸高へいったのです。

――　いやいやピアノをやっていても，芸高にはいってしまうのですから，たいしたものですよ。**聴音のお勉強**はどうされました？

高橋アキ　小学校6年の時，鎌倉に桐朋の子供のための音楽教室の分室ができましてこゝで，――母は今も教えているのですけれど――，1週間1回聴音に通ったのです。けれどやっぱり毎週通うのがいやでいやで，半年位でやめてしまいました。

幼い時から母のピアノを聴いていましたから，自然に絶対音感が耳にはいっていたのでしょうね。聴音のお勉強らしい勉強はしませんでした。

芸高に上る時も，山本先生（編註・聴音教室で有名）のところへ3回伺っただけです。

――　その時の芸高入試の曲目は？

高橋アキ　第一次がケスラー15番の3番と，バッハの平均率の中から，第二次がシューベルトソナタの op. 120 の3楽章，それに初見の試験があったように覚えています。

――　先生は，初演曲を沢山手がけていらっしゃる位ですから，その頃から**初見**がお得意だったのでしょうね。

高橋アキ　それがね，さっきから申しているように遊ぶことが大好きでしたから，初見なんかもそう得意ではありませんでしたよ。

母に1日10分でよいから，初見の練習をしなさいといわれたほどですから。でもやっぱりろくに練習しませんでしたね。

――　芸高ではやはり，伊藤裕先生につかれたのですか。

高橋アキ　はい。芸高3年の時，芸大入試6ヶ月前，伊藤裕先生が神経のお病気になられて，井口秋子先生に受験のめんどうは見て頂きました。

――　芸大では？

高橋アキ　芸大にはいってから，伊藤裕先生の御病気が治られて，また伊藤先生にもどるということになったのですが，丁度その頃，指揮者の渡辺暁雄先生の紹介で来日された，レイ・レフ先生に師事することになったのです。

レイ・レフ先生は，ロシア生れのユダヤ人。子供の頃アメリカに移住され，ニューヨーク中心に演奏活動をされていた女の方です。

師に学んだこと。

――　ちょっとわき道にそれますが，師に学んだこと，というか，それぞれの先生から何を学ばれ吸収しましたか。

高橋アキ　**井口秋子**先生には，6ヶ月位しかみていたゞきませんでしたから。しかも課題曲だけしか……。

でも，井口秋子先生は，パッと生徒の特徴を摑んで，……何というのかな，大づかみなんですけれど，音楽のこと，こうだ！　と御指導下さる，ハッとするような。まあ素晴しい先生だなと思いました。

――　井口秋子先生は，個性を引出すのが御上手なんでしょうね。

高橋アキ　まあ，他の先生のことはよく存じませんけれど，少なくとも伊藤裕先生よりは，そういう面優れていらっしゃると感じました。

伊藤裕先生には，子供の頃からついていて，自分ではよくわからないですよ。

他の方は，私のこと伊藤裕先生によく似ているといわれます。

例えば，音が潔癖だとか，音楽に対する接し方だとか，伊藤裕先生は，とても細かくて一つ一つを念入りにみて下さる。鋳型にはめていくようなところがあるんです。それで先生についていてある時期，とても悩んだことがあるんですが。――私自身音楽を一つ一つ細くみてゆくところがあります。

――　**レイ・レフ**先生は？

高橋アキ　今考えると，レイ・レフ先生につくのが，私にとって早すぎたんだと思います。非常に特殊な先生で，御自分が指が小さかったもので，指使いのことを大変やかましくいわれる。それも（1）の指を多く使うのです。

楽譜に全部の指使いを記入させられたり，全部の音符にですよ。それから指先きで弾かないんですね。up down と手首の使い方をやかましくいわれたんです。

――　音楽的なことより，メカニック上のことばかり？

高橋アキ　それを早く卒業してしまえば，もっと音楽のことを教えて頂けたと思うのですけれど。

いつ行っても up down と指使いのことばかりいわれるもので，いやになってレッスンの時初見で弾いたりしていました。

音色的にみても，なんか曇ったみたいになってしまって……。レイ・レフ先生の演奏を聴いて感じたのですけれど，ルービンシュタインみたいに，水みたい。まあ，水彩画を画いているような，音色の変化はあんまり感じられませんでした。音楽的にはすばらしかったのでしょうけれど，私はそこまでいきませんでした。

――　1年半レイ・レフ先生について，再び伊藤裕先生につかれたわけですか。

高橋アキ　はい。この時が一番悩んだ時代です。レイ・レフ先生の時，レッスンが面白くなかったので，ピアノ伴奏だとか，お友だちの作品を弾いたり他のこと（ピア

ノの）をやって自由に過してしまったので，また伊藤先生のきちっとしたレッスンが苦痛だったのですね。

小さい時からピアノをやって来たけれど，何のためにピアノを弾くのか，とか，演奏は個性的でありたいとか，学生時代によくある悩みですよ。成長課程の反抗期に当るわけでしょうか。

卒業の頃は，私の自由に先生も何もおっしゃらなくなり，お互いにわかり合えるようになっていましたが。

芸大同期の人々。

―― 先生の同期の方々には，どなたがいらっしゃいましたか。

高橋アキ ピアノでは，**遠藤郁子**さん，芸高から一緒で大学一年の時，ショパンコンクールを受けるため退学されましたけれど。

それから**岩崎セツ子**さんとか，**中野公子**さん，**片山敬子**さんとか。

―― お友だちの作品をよく弾かれたようですが，どういう方々の？

高橋アキ 今でも御活躍の方々ですよ。**池辺晋一郎**さんとか**三枝成章**さんとか，**八村義夫**さんのなんか。

―― でその頃から世界初演をやってらしたわけですね。

高橋アキ （笑）大げさにいえば，そういうことになりますか？ いくら学生の作品でも初演には違いませんね（笑）。

―― どんな偉大な作曲家でも，子供の頃があり，学生時代がある。シューベルトなんか，18才の時にあれだけの作品を作曲しているんですから。偉大な作曲家は，若い時にも名作を沢山のこしていますよ。

芸大大学院で学ぶ，ヴァシャヘーリ先生のこと。

高橋アキ さて，大学院では何先生に学ばれましたか。

高橋アキ 伊藤裕先生は大学院で教えていらっしゃらなかったので，初めの6ケ月間，黒沢愛子先生に学び，それからその頃丁度来日したゲォルク・ヴァシャヘーリ先生に大学院を出るまで師事しました。

ヴァシャヘーリ先生は，デンマーク国籍なんですけれど，ハンガリー人で，フィッシャーとバルトークの弟子で，ケンプが武蔵野に推選して来日されたのを芸大でも一日教えて下さることになったわけです。

私は，レイ・レフ先生で少々こりていますから，あまり期待せず，ヴァシャヘーリ先生についたのですけれど，とてもすばらしく最高のレッスンをして頂きました。

―― どんなレッスンで？

高橋アキ そうですね。最初のレッスンの時，5曲位曲を下さって，それから毎週1曲は新しい曲をもっていくんです。それを全員にそれぞれ考えて曲を下さるのです。私なんか，それまで学校のレッスンがいやで，大変なまけていましたから，毎週新しい曲を形つけて，レッスンに持って行くということは，大変勉強になりました。レッスンがいわゆる音楽的なんですね。それから，真似するということをとをとても嫌われました。

それまでのレッスンは，先生の真似するような方向で受けてましたでしょ，それが，先生の真似をすると大変怒られるのです。先生が，イマジネーションを非常にかきたてて下さるんです。

例えば，絵と比較したり，陰影のつけ方なんかも他の芸術の話をして下さったり，曲を弾いているとイメージが拡がってくるようなレッスンをして下さいました。

―― 何語でレッスンをうけたのですか。イマジネーションをかきたてられるほどなら，相当の語学力が必要でしょ。

高橋アキ 私だけ英語，レイ・レフ先生の時もそうでしたが。

他の方は，ドイツへ留学したいとかでドイツ語で受けていらしたようですが，最後は全部英語になってしまったみたいです。

―― 特に印象に残ったレッスンは？

高橋アキ ヴァシャヘーリ先生は，シューベルトのスペシャリストと言われていますが，大学院は2年で終りですから，先生について半年位で，卒演や卒論のことを考えなければならないわけで，一人一作曲家づつ当てがわれたわけです。私はシューベルトに当って，初めは，いやだとゴネたのですが，これが大変身になったように思えます。他の方は，ベートーベンの方やブラームスの方，エチュードの歴史なんかをやった方もいたようですよ。

私，ヴァシャヘーリ先生についたと同時位に，日独現代音楽から演奏を頼まれたりして，それ以後二足のわらじをはいたような形で，先生のレッスン充分に受けられなかったような気がします。それがちょっと残念です。

現代音楽への道。

―― いわゆる現代音楽奏者としてのスタートは，いつ頃，どういうきっかけで初まったわけですか？

高橋アキ 確に私は高橋悠治の妹なのですが，兄のやっていることを知っていたわけではなく，また兄は1963年にアメリカに行ってしまっていましたから，前衛といわれる作曲家とつき合いがあったわけでもないので，現代音楽と密接な関係をもっていたわけではないのです。

レイ・レフ先生に師事していた時代に，問題意識的なものが育くまれていて，現代音楽もいいなあと考えていたりはしましたが。

大学院にはいって，先ほども申しましたようにヴァシャヘーリ先生に師事するかしない頃のこと，ある日突然，石井真木さんから，日独現代音楽祭で弾いてくれないか，というお電話を頂いたのです。何で，私のところに？ と本当にびっくりしたり，不思議に思ったのですけれど，後で聞いたところによりますと，芸大に**浦田健次郎**さんという作曲科の学生がいて，この方の「サックスとピアノのソナタ」を，文化会館の小ホールで私が演奏したことがあるのですが，石井真木さんがそれを聞きに来ていらっしゃって，それで，私の所にお電話を下さったんだそうです。

―― その時，演奏した曲は？

高橋アキ **武満徹**さんのコロナと**篠原まこと**さんのダンダンス（傾向）の2曲でした。この時に，好評をいただいて，続いて現代音楽の仕事をいただくようになったのですね。

―― 楽譜ございますか？

高橋アキ えゝ，武満さんのはあります（楽譜を持ってきて下さる，どうみても楽譜とは見えない図型といった方がよいであろう，2頁左上図参照）

―― ああ，これどうやって演奏するのですか。

高橋アキ 私もこの楽譜いただいた時，まったく困ってしまったんですよ。何が何だかさっぱりわからない。ナゾ解きのようなものです。

―― 弾き方を教えていたゞけなかったのですか。

高橋アキ　えゝ，その頃私武満さんを存じ上げなかったもので。それで後になって人に聞いたら，本来は裏に奏法のルールが書いてあるものだというので，これには書いていないので，写させていたゞいたのです。

それで2分とか4分で弾くとか，図型のこっちから――反対から弾いてもよいのですが――弾くのだとか，やっと少しづつわかってきたのです。

―― わあ，これにはショックですね。ナゾ解きにどの位かゝりましたか。

高橋アキ　それが，演奏の一ケ月前に譜面をいただいて，間際になってやっとナゾ解き法を知ったわけです。

―― これ誰が画いたのですか。

高橋アキ　**杉浦康平**さんというデザイナーの創作ということになっているのです。

―― えゝ，よく存じ上げています。実は私の本の表紙を画いていたゞいて，10年位前のことですが，朝日デザイン賞か何か受けられたことがあるのです。

じゃあ，作曲家のイマジネーションをデザインするわけですね，そうすると作曲家は，どんな音になるかわかっていらっしゃるのですか。

高橋アキ　まあ，本当に基本的な原則だけは，わかっているでしょうけれど，実際の音はわからないでしょう。どの音と定めてあるわけではありませんから，丁度その頃，チャンスオペレーション偶然性音楽というのが，流行った頃です。だから演奏家にすべてまかされていたわけです。

―― じゃ，作曲は武満徹でも，半分は高橋アキ作曲ということになりますね。

高橋アキ　まあ，そういうところですかね。

―― それが，好評だったというわけですか。

高橋アキ　そうなんですね。でも，もう一つの篠原まことの曲は，シュトックハーゼンのような曲で，それはとてもむずかしい曲でして，一応楽譜もあったのですけれど，曲のつなげ方とか，どう進むかなど，こちらで定めなければならない曲でした。この方が好評で，コロナの方は，あまり理解されなかったみたいです。

―― じゃ，今日弾いて，明日弾いたら，違うということもあり得るわけですか。

高橋アキ　まあそうでしょうね。

―― では，現代音楽では，演奏家もプラス作曲家といえますね。

高橋アキ　うーん，まあ，演奏家の復権などというのですけれど。シュトックハーゼンとかミュージックセリエルの人達が。細く楽譜を規定してしまったので，演奏家の自由がないということになって，60年代ジョンケージがでてきて，ものすごく自由に演奏家にまかせてしまう曲が生てきたわけです。ところが，演奏家の方ではどうしていいのかわからなくて，かえって不自由に感じてしまう人もいるわけです。

―― そして翌年の日独現代音楽祭では，何を弾かれましたか。

高橋アキ　**石井真木**さんの「響応」と兄**高橋悠治**の「メタティーシス」これはペーターから楽譜がでています。

日独音楽祭というのは，いつも2月にありまして，大学院の試験とぶつかりますでしょ，ずい分つらい思いをしました。（楽譜を持って来て見せて下さる）

―― ペーターといえば，古くはバイエル，世界でも大

きな出版社ですよね。すばらしいことです。これはまともな音譜が書いてありますね。だけど，ものすごくむずかしい。これは大変なテクニックが必要ですね。

高橋アキ　これが，1秒で演奏するのです。（離れた音が10ケ位ある）リストとかクラシックを弾くテクニックでは弾けません。88鍵がどう動くか，とにかく特殊なテクニックが必要です。

―― こんなむずかしいテクニック，学校では学びませんよね。いつ身につけられたのですか。

高橋アキ　やりながら身につけていったのです。こんなエチュードもありませんし。初めゆっくり弾いて，音をおぼえて速く弾いていくのです。

―― 現代音楽を弾けるテクニックを持っていらっしゃる方が日本には少いですね。

高橋アキ　見がいます。現代音楽弾いていらっしゃる方もいますけれど，演奏を聞いていますと，**ふっ切れ**てない方が多いですね。

―― ふっ切れていないとは？

高橋アキ　つまりベッタリと，ロマン派の音楽を弾くのと同じような，そういう伝統的なことからぬけでていない。何というのかな，同じ日で現代音楽を見ているのですね。

かつて高橋アキ先生のピアノ演奏を聴いた時，前衛のモダンバレーの躍動を連想したことがある。ふっ切れるとは，そんな躍動を言うのであろうか。

こんな話題から，アキ先生が，2回に亘ってヨーロッパ演奏旅行された時のことから，話題は今後のスケジュールに及んだ。

フランスで演奏した時のこと，聴きに来た人々の年令は老若男女を問わず，自分のこととして問題意識を持って，聴きに集って来ているということ，そして，演奏が終ったあと，聴衆と作曲家演奏家との対話があって，活発な意見交換がおこなわれたことなど，また，演奏各地で日本文化使節か何かで，政府の援助があって来ているのか，など尋ねられたとか。

日本ではまだ現代音楽に対して，それほど援助はなされていないのが実情である。

高橋アキ先生は，来年またヨーロッパ行きが，定っていらっしゃって，今度は現代音楽のみならず，モーツァルトのピアノコンチェルトも，というお声掛りがあるとか。日本を代表するピアニストとして御活躍を祈りたい。

12月2日の高橋アキ先生の公開講座が，聴講の皆さんの現代音楽の理解に役立つことを信じて，ペンを置こう。